

『春琴抄』

- 盲目の三味線奏者・春琴
  - 主人公・春琴
    
    - 9歳で失明
    - 一流の三味線奏者
  - 気性の激しさ
    - 稽古の厳しさは男性泣かせ
    - 音楽に対する真摯な姿勢の表れ
  - 美貌
    - 盲目のため自分では見ることができない
    - 「見えない美」
      - 作品の奥深さ
- 佐助の献身的な愛情
  - 春琴に仕える佐助
    - 献身的な愛を貫く
    - 恋愛を超えた崇拝に近い
  - 物語の転機
    
    - 春琴が顔に大やけどを負う事件
    - 佐助は自ら針で両目を突いて失明
    - ⇒ 春琴の美しさを永遠に保つため
  - 谷崎が描く究極の愛の形
- 耽美主義と独特の文体
  - 耽美主義が色濃い作品
    - 美への憧れとその追求の姿勢
    - 「美と醜」などの対立概念
  - 独特の文体
    
    - 記号文字を極力省いた実験的な手法
    - 美しい言葉の連なりとリズム感
  - 高度な文学的要素が融合
    - 独自の美学を形成